

2017年（平成29年） 9月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

8/24~8/30のNYMEX・WTIは、45.96~47.87ドルの範囲で推移した。

8月31日は、月末のポジション調整の買いやユーロ高・ドル安に伴う原油先物の割安感に支えられ、大幅反発した。ハリケーン「ハービー」は熱帯低気圧に変わったが、多数の製油所の操業停止で米国の精製能力は平時の4分の3に低下、ガソリン価格は高騰したものの、原油先物は製油所停止に伴い原油在庫が増加するとして、前日まで3営業日続落していた。10月限の終値は前日比1.27ドル高の47.23ドルだった。

週末9月1日は、レイパーデーの3連休を控え、ポジション調整の売り買いが交錯する中、わずかに値上がりした。停止中の製油所の一部で操業再開したとの報道もあり、原油在庫の先行き過剰懸念も後退した。ペーカーヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数759基（前週比横ばい）だった。10月限の終値は前日比0.06ドル高の47.29ドルだった。

連休明け5日は、製油所再開の報を受けて買い進まれ、大幅続伸した。ドル安・ユーロ高に伴う割安感もこれを支えた。10月限の終値は前週末比1.37ドル高の48.66ドルだった。

6日は、製油所やパイプライン等が徐々に操業再開する中、原油在庫の過剰懸念が後退し、ドル安・ユーロ高に伴う原油先物の割安感にも支えられ、4営業日続伸した。10月限の終値は前日比0.50ドル高の49.16ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（10月渡し）は、前週50.10~50.70と狭い範囲で推移した。8月31日49.40ドル、9月1日51.20ドル、4日50.90ドル、5日51.00ドル、6日は52.00ドルで推移した。

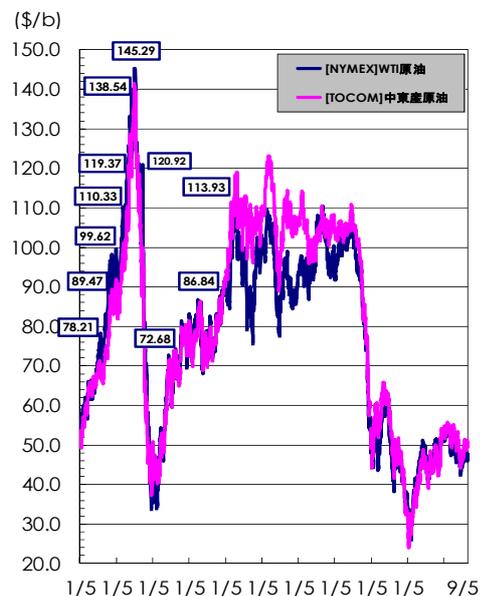
為替は、前週108.81~109.89円の範囲で推移した。8月31日110.42円、9月1日は110.16円、4日109.83円、5日109.66円、6日108.64円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計速報による8月中旬の原油輸入平均CIF価格は、34,097円/klとなり、前旬を95円上回った。ドル建てでは49.00ドルで前旬比0.57ドル高。為替レートは1ドル/110.61円。

主要元売会社の9月第2週に適用する卸価格は、全社とも据え置きとなった。原油価格はわずかに値上がり、為替レートもわずかに円安で、原油調達コストはやや値上がりした。

そのような中で、9月4日時点の小売価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに横ばいだった。ガソリン、灯油は2週振りの横ばい、灯油は6週連続の横ばいだった。この週（9月第1週）の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、据え置きと0.5円の引き上げに分かれた。

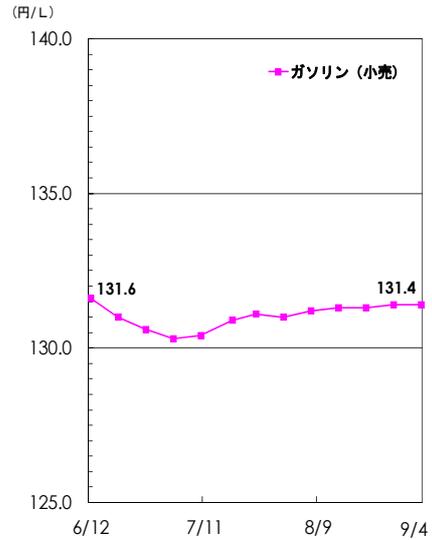
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/27 ~ 9/2	3,573 ▼ -163	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	91.2 ▼ -4.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/2	12,749 ▼ -1,164	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	9/4	50.63 ▲ 0.16	▲ 7.0
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	9/5	48.66 ▲ 2.09	▲ 3.8
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	8月中旬	49.00 ▲ 0.57	▲ 3.60
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	34,097 ▲ 95	▲ 4,582
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.61 ▲ 1.00	▼ -7.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/4	110.83 ▼ -0.72	▼ -5.90



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/27 ~ 9/2	1,062 ▲ 19	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,078 ▲ 99	▲ -	
	輸出	"	40 ▼ -32	▲ -	
	在庫	9/2	1,648 ▼ -55	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/29 ~ 9/4	49.8 ▲ 0.8	▲ 6.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/29 ~ 9/4	49.6 ▲ 0.2	▲ 8.6
		(TOCOM/中部)	9/4	49.5 ▲ 0.5	▲ 9.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/4	131.4 ➡ 0.0	▲ 8.5	

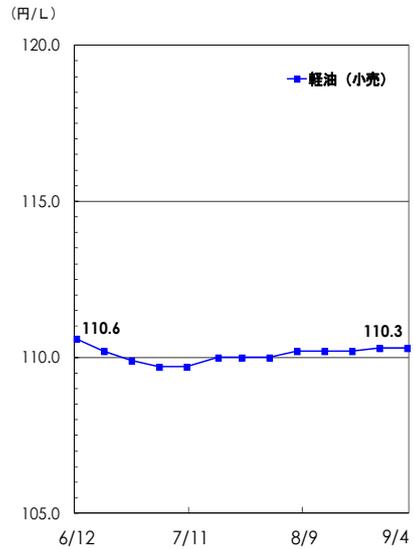
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

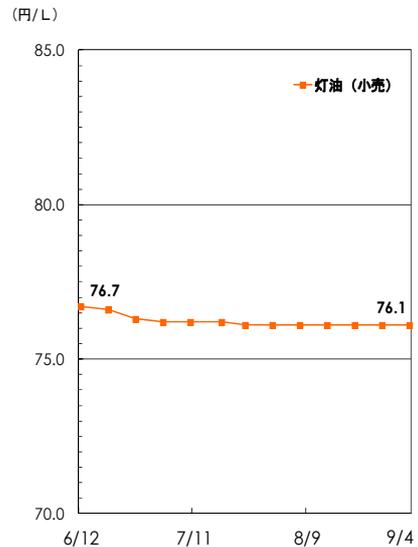
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/27 ~ 9/2	839 ▼ -60	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	779 ▲ 180	▲ -	
	輸出	"	242 ▼ -57	▼ -	
	在庫	9/2	1,413 ▼ -183	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/29 ~ 9/4	48.1 ▲ 0.4	▲ 9.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/29 ~ 9/4	48.0 ➡ 0.0	▲ 9.3
		(TOCOM/中部)	9/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/4	110.3 ➡ 0.0	▲ 7.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/27 ~ 9/2	220 ▲ 14	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	145 ▼ -4	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	9/2	2,357 ▲ 75	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/29 ~ 9/4	48.2 ▲ 0.8	▲ 10.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/29 ~ 9/4	48.2 ▲ 0.1	▲ 9.0
		(TOCOM/中部)	9/4	48.5 ▲ 0.6	▲ 10.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/4	76.1 ➡ 0.0	▲ 12.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月6日のNYMEX市場WTI原油は、熱帯低気圧となったハリケーン「ハービー」の影響で停止していた製油所・パイプライン・港湾等が徐々に操業を再開、原油価格の下げ要因となっていた原油在庫の増加懸念が後退し、4営業日続騰した。一時は、全米精製能力の約4分の1に相当する日量440万バレルが操業停止していたが、5日昼時点で日量380万バレルまで回復した。また、勢力の強い別のハリケーン「イルマ」がフロリダ州に接近していることから、警戒感が高まっている。なお、米国エネルギー情報局(EIA)の週報は、レイバーデーの3連休で、1日遅れの7日に発表予定。10月

限の終値は、前日比0.50ドル高の49.16ドル、11月限の終値は前日比0.48ドル高の49.62ドルだった。

EIAによると、9月4日時点のガソリンの小売価格は前週比28.0セント値上がりの1ガロン2.679ドル(78.2円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比15.3セント値上がりの2.758ドル(80.5円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、8月27日～9月2日に休止したトッパー能力は8.6万バレル/日で、前週に対して8.6万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は357.3万klと、前週に比べ16.3万kl減少。前年に対しては15.6万klの減少。トッパー稼働率は91.2%と前週に対して4.2ポイントの減少、前年に対しては3.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油のみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.8%増、ジェット/32.2%増、灯油/6.9%増、軽油/6.7%減、A重油/11.5%増、C重油/4.3%増。今週のC重油の輸入は6.3万kl(前週比5.2万kl増)。軽油の輸出は24.2万kl(前週比5.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン・軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では、ジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は107.8万kl(対前週10.1%増)と4週振りに前週比で増加、11週振りに前年比で増加となり、3週振りに100万klを超えた。

ジェット1.6万kl(対前週91.4%減)、灯油14.5万kl(対前週3.0%減)、軽油77.9万kl(対前週30.2%増)、A重油20.1万kl(対前週4.4%減)、C重油15.9万kl(対前週14.3%減)。

(単位:千KL)

	今週 (8/27 ~ 9/2)	前週 (8/20 ~ 8/26)	前週比	
ガソリン	1,078	979	▲ 99	(10%)
ジェット燃料	16	184	▼ -168	(-91%)
灯油	145	149	▼ -4	(-3%)
軽油	779	599	▲ 180	(30%)
A重油	201	210	▼ -9	(-4%)
C重油	159	186	▼ -27	(-15%)
合計	2,378	2,307	▲ 71	(3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月2日時点の在庫は、ジェット、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは164.8万kl、前週差5.5万kl減。前年に対しては1.1万kl多い。

灯油は235.7万kl、前週差7.5万kl増。前年に対しては26.1万kl少ない。

軽油は141.3万kl、前週差18.3万kl減。前年に対しては31.4万kl少ない。

A重油は78.5万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては1.4万kl多い。

C重油は216.2万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては12.8万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (9/2)	前週 (8/26)	前週比	
ガソリン	1,648	1,703	▼ -55	(-3%)
ジェット燃料	977	937	▲ 40	(4%)
灯油	2,357	2,282	▲ 75	(3%)
軽油	1,413	1,596	▼ -183	(-11%)
A重油	785	805	▼ -20	(-2%)
C重油	2,162	2,123	▲ 39	(2%)
合計	9,342	9,446	▼ -104	(-1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月29日から9月4日までの原油コストは、原油価格はわずかに値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油コストはやや値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン103円台で堅調、軽油47～48円台で堅調、灯油47～48円台で堅調に推移した。

海上スポット価格は、ガソリン104～105円台で堅調、軽油48～49円台で連日大きく動き、灯油47～48円台で堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン102～104円台で連日大きく動き値上がり、軽油48円台で横ばい、灯油47～48円台で連日動

いた。元売の卸価格は、全社据え置きだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月29日から9月4日の原油コストはやや値上がりし、製品スポット市況は、陸上のガソリンと先物の軽油を除き、それ以外は値上りした。

9月第2週(9月7日～13日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月29日～9月4日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油も0.8円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.5円の値下がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は1.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油が横ばいだった。原油価格はわずかに値上がりし、為替もわずかに円安で、原油コストはやや値上がりだった。

9月第2週の大手元売の卸価格は、全社据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/29 ~ 9/4)	前週 (8/22 ~ 8/28)	前週比
	レギュラー	49.8	49.0
灯油	48.2	47.4	▲ 0.8
軽油	48.1	47.7	▲ 0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (8/29 ~ 9/4)	前週 (8/22 ~ 8/28)	前週比
	レギュラー	49.6	49.4
灯油	48.2	48.1	▲ 0.1
軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/29～9/4実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▲ 0.2	▲ 0.5
灯油	▲ 0.8	▲ 0.1	▲ 0.4
軽油	▲ 0.4	▶ 0.0	▲ 0.2
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの131.4円、軽油も横ばいの110.3円、灯油も横ばいの76.1円だった。ガソリンは2週振りの横ばい、軽油も2週振りの横ばい、灯油は6週連続の横ばいだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは18道県、横ばいは11府県、値下がり18都府県、全国最安値は埼玉県(127.1円(同0.2円安)、次が徳島県の127.5円(同0.2円安)、最高値は沖縄県の140.6円(同1.2円安)だった。最も値上がりしたのは、0.9円高の長崎県(139.3円)・和歌山県(132.2円)、最も値下がりした県は、1.2円安の沖縄県(140.6円)、横ばいは、高知県・佐賀県・愛媛県・京都府・静岡県・三重県・富山県・秋田県・茨城県・広島

県・岩手県だった。

原油コストは値上がりしたが、2週振りでガソリン小売価格は横ばいだった。今週の原油価格はわずかに値上がりし、為替レートもわずかの円安で、原油コストはやや値上がりした。元売会社の卸価格は、全社据え置きとなった。次週(9月11日)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (9/4)	前週 (8/28)	前週比	直近高値	
	レギュラー	131.4	131.4	▶ 0.0	08/8/4
灯油	76.1	76.1	▶ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	110.3	110.3	▶ 0.0	08/8/4	167.4

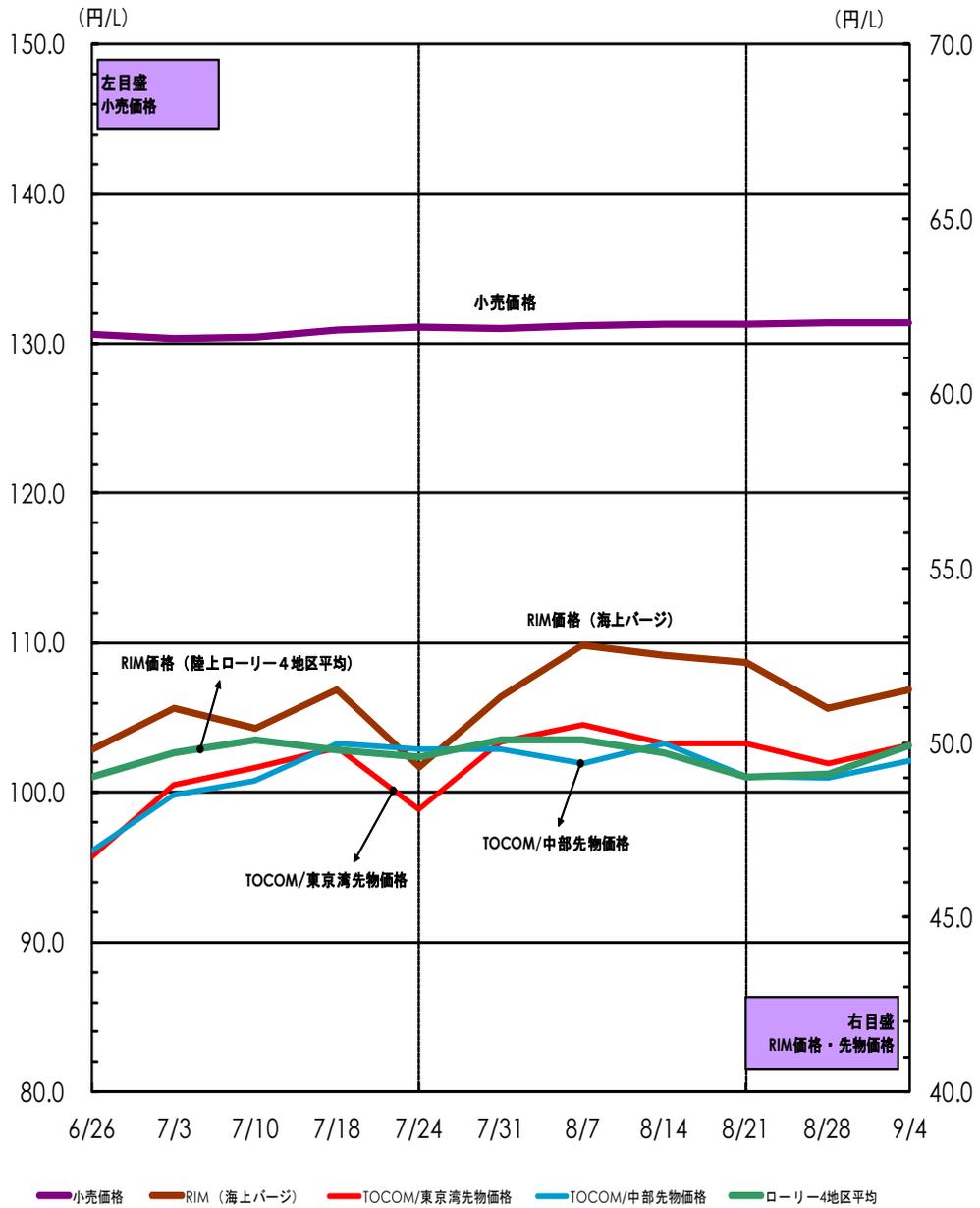
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/6/26 ~ 2017/9/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第22号)の公表は、9/15(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。